

# 令和7年度上半期消費生活相談状況の概要

## 1 件数 ⇒ 前年度同時期と比較して増加

県内の相談窓口に寄せられた相談件数は、県・市町合わせて4,481件となった。

- ・前年度同時期と比較して231件（前年度同時期比5.4%）増となった。
- ・内訳は、県センター1,587件（35.4%）、市町窓口2,894件（64.6%）。

## 2 年代 ⇒ 依然として高齢層からの相談が多い。

70歳以上からの相談は1,101件（24.6%）と最多、60歳代からの相談が803件（17.9%）、50歳代からの相談が621件（13.9%）と続く。

## 3 内容等 ⇒ 「SNS」「点検商法」「偽サイト」の相談が増加

- (1) 商品・役務別では、「商品一般」の相談が413件（9.2%）と最多。次いで「化粧品」が350件（7.8%）、「役務その他」が224件（5.0%）と続く。「化粧品」「健康食品」は幅広い年代から多く相談を受けている。「インターネット通信サービス」は60歳代以上、「内職・副業」は20歳代から40歳代にかけて多く相談を受けている。
- (2) 販売購入形態では、「通信販売」の相談が1,767件（39.4%）と最多。次いで「店舗購入」が746件（16.6%）、「電話勧誘販売」が382件（8.5%）と続く。20歳未満から寄せられる相談の約7割を「通信販売」に係る相談が占める。「訪問販売」「訪問購入」は高齢層からの相談が多く、「電話勧誘販売」は若年層と高齢層からの相談が比較的多い。
- (3) インターネット通販に関する相談は1,318件（29.4%）となった。依然として多くの相談を受けており、通信販売に係る相談の7割以上を占める。
- (4) 定期購入に関する相談は495件（11.0%）で前年度同時期と同水準となり、SNSが関係する相談は524件（11.7%）となり前年度同時期比で33.0%増加した。いずれも前年度に引き続き多くの相談を受けている。
- (5) サイドビジネス商法及び利殖商法に関しても、引き続き多くの相談が寄せられている。いずれも比較的若年層からの相談が多いことに加え、利殖商法については幅広い年代からも相談を受けている。
- (6) 点検商法に関する相談は前年度同時期比で30.8%増加している。高齢層からの相談が多く、最近では太陽光パネルや給湯機に関する相談が増加傾向にある。
- (7) 偽サイトに関する相談が前年度同時期比で34.5%増加している。ブランド衣類や鞆、お米等について、粗悪品が届いた、商品が届かないなどの相談が多い。
- (8) 商品や役務等に関連して身体にけがや体調不良等の害を受けたという「危害」の相談は54件、危害を及ぼすおそれのある「危険」の相談は7件であり、顕著な増減はみられない。例年と同様に、「食料品」「保健衛生品」「保健・福祉サービス」に関する内容が多い。

※かっこ内の数字は、特に断りのない限り、総相談件数（4,481件）に対する比率を示す。